



子供歌舞伎からみる都市祭礼の変容と地域社会 - 石川県小松市お旅祭りの事例 -

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース人文地理学研究室
11410055 喜多祐真



1.問題の所在と既存研究

近年、日本では人口減少や少子高齢化によって
伝統行事や地域活動の担い手不足が深刻化している

変化が目に見えないため対策が取りづらい

伝統行事本来の醍醐味や感動を伝え難い



伝統行事の実態を明らかにすることで、
今後とも行事を継続していくための
対策や方策を練ることが出来ると考えられる

1.問題の所在と既存研究

松平(1990)
「都市祝祭の形式と内容とは、都市生活とその文化の鏡である」
有末(1983)、大地(2012)、小西(2014)など

伝統的な祭礼を人々との生活との関連の中で捉えることは、今後の地域社会のあり方を考えていく上でも、資する所があると考えられる

1.問題の所在と既存研究

祭礼

 ←選択縁（上野1984）

現代社会の祭礼を血縁や地縁といった「選べない縁」に基づいた概念では把握できないという前提

→しかし、実態として血縁や地縁による人々の関係性は廃れてきているのだろうか

あえてその視点から分析を行うことで、現代の祭礼と地域社会の関連について新たな捉え方を得られるのではないかと

2.調査対象・対象地概要

お旅祭り
石川県小松市で毎年5月中旬の土、日曜を挟む4日間に渡り行なわれる
菟橋(うはし)神社と
本折日吉神社の春季祭礼

曳山子供歌舞伎が有名
起源は1817年
1951年(昭和26年)より
毎年全8町の内、担当町2町の
曳山の上で地元の子供たちが歌舞伎を演じる



第1回 曳山を持つ8町
(統計GIS境界データより作成)

3.研究目的

○祭礼において衰退したと考えられる血縁や地縁といった人間関係が、どのように現れているかを考察し、そのような視点での研究の必要性を明らかにする

○祭礼が今後の地域社会のあり方についてどのような意義を持つかを検討する

4. 研究方法

関係者への聞き取り調査

パンフレット、町誌の等の文献調査

→運営組織、参加者、祭礼の場に着目
伝統的祭礼はこの中に「選べない縁」が現れる

5. 調査結果

1. 子供歌舞伎の運営

五人衆

町内の若者組織
出演者の選出、演目の決定、
協賛金集め、宣伝など、多岐に渡る
仕事を行う

過去

資金・経済面においても運営能力が試されるという場
町内に居住し続けていること→曳山の運営を学ぶ

現在

担い手不足により、町内組織による運営が行われる
町外居住者や勤め人も増えている
→町の人々や若連中との人間関係を築くことが必要とされる
できるだけ五人衆による運営を行う

5. 調査結果

2. 役者の決定

過去

町内出身の女兒

条件の緩和

現在

町内居住
性別 } 問わない
血縁関係のある子供

5. 調査結果

3. 上演場所の変化

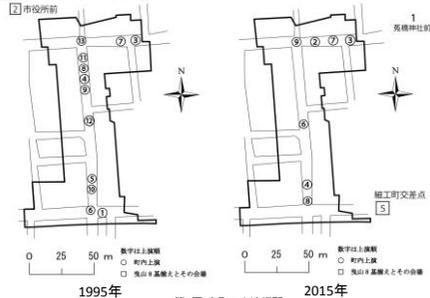
1. 毎年度で上演の場所が変化する町
 2. 交差点を中心に、その他の場所でいくつか上演を行う町
 3. ほとんど決まった場所でしか上演を行わない町
- 1の町は、町内の子供が選ばれた場合は家の近くで上演を行う

上演場所に関しては、町の形や大きさ、氏子地域の違いによって異なる

- 曳山8基揃えによって町外でも上演
- 町外不出の原則を破る、祭礼の場の変化

5. 調査結果

3. 上演場所の変化

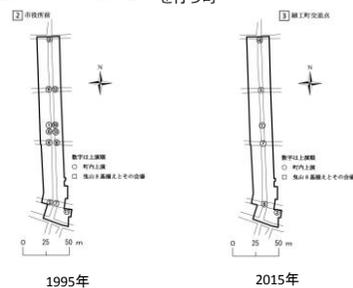


第2図 京町の上演場所
(統計GISデータ、およびパンフレット、聞き取り調査より作成)

5. 調査結果

3. 上演場所の変化

2. 交差点を中心に、その他の場所でいくつか上演を行う町

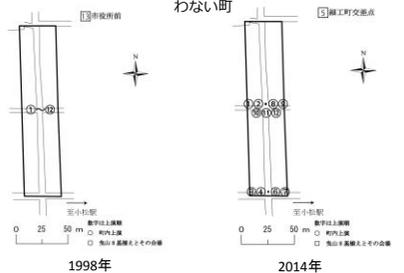


第3図 大文字町の上演場所
(統計GISデータ、およびパンフレット、聞き取り調査より作成)

5. 調査結果

3. 上演場所の変化

3. ほとんど決まった場所でしか上演を行わない町



第4図 八日市町の上演場所
(統計GISデータ、およびパンフレット、聞き取り調査より作成)

6. 考察

- ・五人衆への参加や役者の選定の条件が緩和
- ・町内組織による運営が行われる

血縁や地縁といったものの衰退

- ・五人衆だけの運営が本来の形という考え
- ・役者の血縁だけは守る
- ・役者による上演場所の変化(自宅の近く)

→「選取できない縁」を中心とした概念で現代の祭りを把握することはできないという前提には当てはまらない

血縁や地縁といった視点からの分析も必要である

6. 考察

子供歌舞伎の上演が五人衆と一部の人間によって執り行われなくなり、町民や町外居住者といった人々の参加が起きていた

このような祭礼の場の変化や広がりによって、コミュニティも広がると考えられる

現代社会では、祭礼にこのようなコミュニティとしての場を見出し、その広がりによって新たな交流が生まれているのである

伝統と変化の間で行われる現代の伝統的祭礼は、
多面的な視点で捉えていく必要がある

7. 参考文献

- 有末 真1983. 都市祭礼の空間的構造 - 目 - 月島の祭礼組織の事例研究 - 社会学評論 33-4 : 37-62.
- 上野千鶴子1984. 祭りと共同体. 井上 俊編『地域文化の社会学』45-78. 世界思想社.
- 英徳神社誌編纂委員会編 1994. 『英徳神社』英徳神社.
- 大野幸也監修1952. 『むかしのこまつ』むかしの小松町行徳委員会.
- 遠城明雄1992. 都市空間における「共同性」とその変容 - 1910-1930年代の福岡市都市部 -. 人文地理 44-3 : 341-365.
- 小島美子1992. 民俗芸能が観光の材料にされる!! 芸術 34(3) : 62.
- 小西理美2014. 伝統行事を選んだ地域コミュニティの形成 - 諏訪祭の事例 -. 社会関係資本研究論集 5 : 113-127.
- 小松町編1940. 『小松史料編 上巻・下巻 小松日記』小松市.
- 小松町編2014. 『新刊小松市史 資料編5 鳧山』北高新聞社出版局.
- 平 真志1990. 東京都千代田区神田地区における人口減少に伴うコミュニティの変容. 地理学評論 63A : 701-721.
- 武田伸子2005. 祭礼の変容と地域社会 - 福山市内海町の事例から -. 筑波社会学論 7:191-216.
- 中村孝美1971. 町と祭り - 秋田県角館町の鳧山燈子の場合. 日本民俗学 77 : 30-53.
- 藤田敏夫1980. 日本都市の社会的特質に関する一考察. 社会学評論 30(4) : 2-16.
- 松平 誠1990. 『都市祝祭の社会学』有斐閣 24-25.
- 深木 栄1993. シンボリズム『民俗芸能とおまつり誌』. 民俗芸能研究 17 : 95-96.
- 深澤あかね2010. 商業的祭り研究における分析視角の検討 - 祭りの背後にある生業と生活の分析の重要性 -. 東北大学大学院教育学研究科研究年報 58-2 : 51-63
- 渡辺健代1999. 近世域下町における祭礼形態の変容 - 下野郡那須郡鳧山を事例として - 地理学評論 72A-7 : 423-443.
- 渡辺健代2002. 宇都宮明神の「付祭り」にみる宇都宮町人の変容. 歴史地理学44-2 (208) : 25-44